

会員発の JSPE 活動とは

PE-0079 山村 佳輝

本年度の JSPE 総会での活動報告にもありましたように、協会活動の報告の要である季刊誌 JSPE マガジンについて、部会の編集理事が発行する形式から情報を集約・発信する形態に発展的に変更する旨、方針が示されました。これに関連して会員が携わることのできる事例になればと考え、以下に協会との関わりで経験した事項を紹介いたします。

これまで筆者（ヤマムラ）も居住地域（中野区）での見学イベントや、旧職（米軍）に関連する催しを見つけては教育部会に話を持ちかけ、Site Visit（施設見学会）等を企画していただきました。

こういった持ち込み企画は、それまで多くはなかったようで、情報を提供すれば、ほぼ承諾されて実施準備に向け動員され、嬉々としてお手伝いしておりました。ただ、たまに費用がかさむイベントの提案には却下の判断をいただき、シューンとしたこともありますが...

協会に対するこういった働きかけがどういったきっかけで始まったのか、それは夏休みの子供の自由研究を手助けするような感覚だったと思います。実際、持ち込んだ企画は子供が好きそうで興味を持つようなもの、例えば地下深くに潜るトンネルやドデカイタービンのある施設などもありました。

筆者自身が土木建設関係の仕事柄であったこともあり、そういった関連のイベントには敏感で、地域の広報誌やテレビの旅番組で紹介情報が見つかり、即刻詳細情報を調査して、いけそうだと踏めば教育部会に持ちかけるようになりました。夏祭りなどもそうですが、楽しいイベントに子供を連れていくと喜ばれるので、やりがいもあります。

筆者は既に現役引退、現職をリタイアしているので職場での情報入手は敵いませんが、現役の会員諸兄は出先も含め、何かとエンジニアの肥やしになりそうなイベント情報に触れる機会も多いと思います。そんな見つかった小さなネタ情報を少し深掘りして、詳しい内容を教育部会に提供していただければ、ひょっとして当該年度の一大イベントになる可能性もあります。

このような協会への貢献は、インパクトが大きいと協会も報いるようで、大相撲の三賞ではないですが、功績賞という形で会員表彰されることとなります（実際、筆者も受賞しました）。これは公益法人からのオフィシャル英文証書ですので、経歴書や PE 資格更新時に掲載する

ことも可能でしょう。

JSPE 協会が会員に広く門戸を開き、皆様の積極的な関与を求めている状況ですので、企画提案という形で参加できるのなら、ぜひとも交わってみませんか？企画が認められてイベント実施となれば、その準備に加わり、あれこれ計画するのも楽しいものですよ。



環状七号線地下広域調節池工事現場見学会
(2023年3月)



首都圏外郭放水路施設見学会
(2024年2月)